

ハイスペックなデジタル環境を備えた「大高DXラボ」の整備

地域のデジタルものづくりの拠点として、また、群島内外間で情報を共有・交流する拠点として、必要な機器を配備した「大高DXラボ」を設置

- クラス全員が生徒の個人端末を安定して利用できるネットワーク環境
- 動画編集等可能なハイスペックPC
- 3Dプリンター
- ドローン、高性能カメラ 等

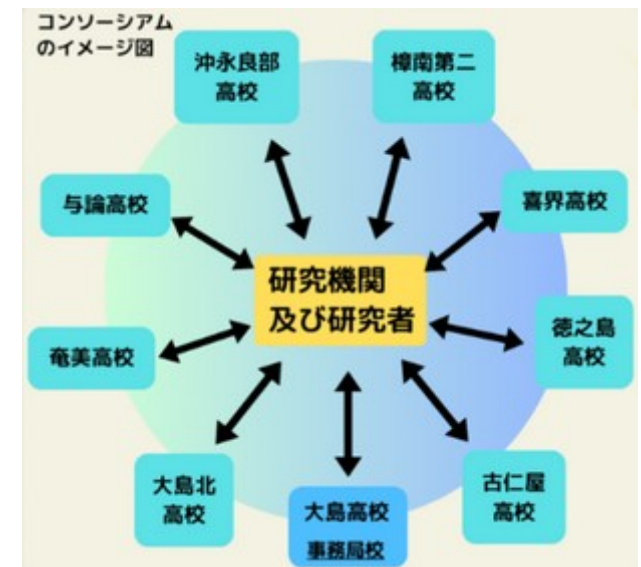


奄美群島高校探究コンソーシアムによる地域連携

大学等の研究機関や地方行政、地域、奄美群島の全高校と協働して学ぶ「奄美群島高校探究コンソーシアム」を通じて、最新のデジタル技術を活用した学びを推進

「情報Ⅱ」の開設

総合的な探究の時間を含む教科横断的な取り組みとして、データサイエンスやAIを活用した授業を推進し、理数分野・情報分野の充実を図るために、文系・理系ともに3年次において「情報Ⅱ」を開設



目指す生徒像と期待される効果(目標)

- データサイエンスへの興味関心を高めて、自らの課題に結びつけて、デジタル環境を活用できる生徒を育成する。
- 「大高DXラボ」のWEB会議環境等を活用し、群島間だけでなく群島外とのコミュニケーション・連携の強化

成果目標

情報Ⅱ履修率60%（文理合計，令和8年度），大学理系学部進学率30%（令和10年度）

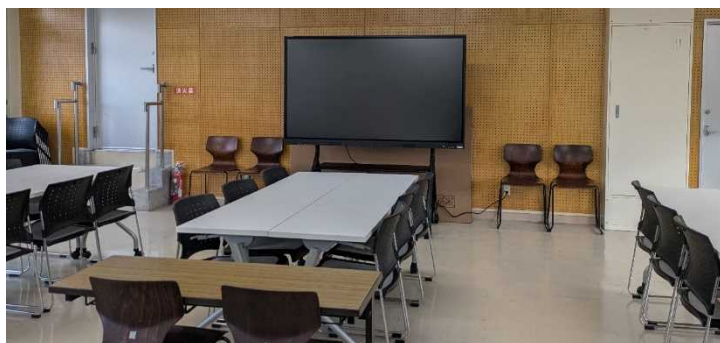
高等学校DX 加速化推進事業について

本校は、文部科学省の「令和6年度高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金（高等学校DX 加速化推進事業）」の採択校となりました。この事業は、本事業は高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化を図るため、情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校などに対して、必要な環境整備の経費を文部科学省が支援するものです。

大島高校（大高）では「DX推進室」を立ち上げて、事業内容を検討し、大高における学校DXの取組を推進しています。

大高における取組

- 共通教科「情報」における科目「情報Ⅱ」の3年次における開設
文系：令和7年度（令和5年度入学生）から、文系選択科目として実施
理系：令和8年度（令和6年度入学生）から、理系選択科目として実施
- 「大高DXラボ」の設置
地域のデジタルものづくりの拠点として、また、島内外間で情報を共有・交流する拠点として、必要な機能を有する「大高DXラボ」を設置
- 最新のデジタル技術を活用した学びを推進
大学等の研究機関や地方行政、地域、奄美群島の全高校と協働して学ぶ「奄美群島高校探究コンソーシアム」等における、群島内外とのコミュニケーション・連携の強化



現在（令和7年1月）整備中の「大高DXラボ」（写真左）とその準備室（写真右，下）



1月29日（水） 「A I 活用に関する講座」開催

講師 株式会社リアルバインド代表取締役 福田佳祐さん

2校時（2年生全員対象）

3・4校時（3学年進路決定者対象）

生成A I 開発の第一線で活躍されている専門家から、生成A I の現在の状況や私たちの生活との関わりに関することに加え、利用する際に注意しなければならないことなども詳しく教えていただきました。3年生の講座では、ワークショップとして各自の学習用端末から実際に生成A I を利用して、「奄美の魅力を伝えるポスター」を作成する活動も行いました。生徒は自分でプロンプト（生成A I への指示）を考えて入力し、素晴らしいポスターを作成していました。

参加した生徒からは、生成A I に驚きの声が上がると同時に、「楽しかった」という声も聞かれました。

※ 本取組は「高等学校D X 加速化推進事業」の一環で実施したものです。



A I 活用に関する講座の様子 2年（写真左）と3年（写真右）